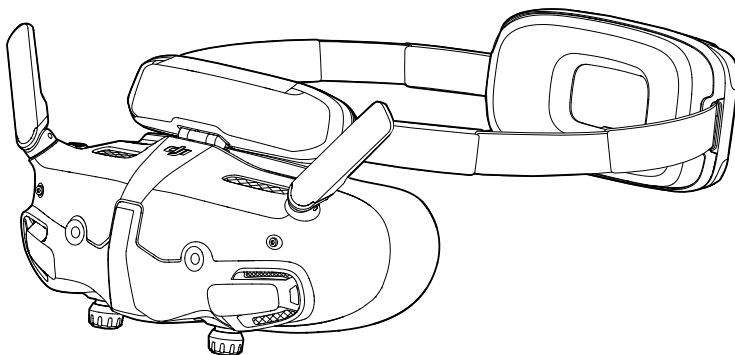


dji GOGGLES 3

ユーザーマニュアル

v1.0 2024年04月





本書は、DJIの著作物であり、すべての権利はDJIに帰属します。DJIから別途許可されていない限り、本書の複製、譲渡、販売を行ったり、本書または本書の一部を使用したり、他の人に使用を許可したりすることはできません。ユーザーは、本書とその内容をDJI UAVの操作に関する指示を参照する目的にのみ使用してください。本書を他の目的で使用しないでください。

キーワードの検索

「バッテリー」や「取り付け」などのキーワードを検索することでトピックを探すことができます。Adobe Acrobat Readerを使用して本書をお読みの場合、WindowsではCtrl+F、MacではCommand+Fを押して検索を開始できます。

トピックへの移動

目次の全トピック一覧が表示されます。トピックをクリックすると、そのセクションに移動します。

本書の印刷

本書は高解像度印刷に対応しています。

本マニュアルの使用方法

凡例

⚠ 重要

💡 ヒントとコツ

ご使用の前にお読みください

DJI™ Goggles 3を使用する前に、以下の資料をお読みください。

1. 安全ガイドライン
2. クイックスタートガイド
3. ユーザーマニュアル

初回使用前に、すべてのチュートリアルビデオを視聴し、安全ガイドラインを読むことをお勧めします。初めての飛行に際しては「クイックスタートガイド」をよく読み、詳細に関しては本ユーザーマニュアルを参照してください。

- ⚠ ・ゴーグルを使用すると、目視内の範囲（VLOS）での飛行という要件は満たされません。いくつかの国と地域では、補助者を設け、空域や周辺に危険がないか監視してもらう必要があります。ゴーグルの使用時は現地の規制に必ず従ってください。（日本国内において屋外でゴーグルを使用しての飛行は目視外飛行になり、航空局からの飛行の許可・承認を取得する必要があります。）周囲が明るく視界が良好な環境で機体を飛ばしてください。

チュートリアルビデオ

以下のアドレスにアクセスするかQRコードをスキャンすると、チュートリアルビデオを視聴でき、製品の安全な使用方法を知ることができます：



<https://www.dji.com/goggles-3/video>

DJI Flyアプリのダウンロード



- ⚠ ・Android版のDJI Flyは、Android v7.0以降で動作します。iOS版のDJI Flyは、iOS v11.0以降で動作します。
- ・DJI Flyのインターフェースおよび機能は、ソフトウェアのバージョンが更新されると変わる場合があります。実際の使用感は、使用するソフトウェアのバージョンによって異なります。

DJI Assistant 2のダウンロード

DJI Assistant™ 2（一般向けドローン用）のダウンロード先：

<https://www.dji.com/downloads/softwares/dji-assistant-2-consumer-drones-series>

- ※： ・対応ソフトウェアのバージョンとOSのバージョンは同ウェブサイトに掲載されています：<https://www.dji.com/goggles-3/downloads>
-

目次

本マニュアルの使用方法	3
凡例	3
ご使用前にお読みください	3
チュートリアルビデオ	3
DJI Fly アプリのダウンロード	3
DJI Assistant 2 のダウンロード	4
製品の特徴	7
はじめに	7
概要	7
はじめに	8
ゴーグルの準備	8
ゴーグルの電源を入れる	8
ゴーグルの装着	9
クリアな視界を得るには	10
矯正レンズの使用	12
追加の額パッドの使用	14
アクティベーション	15
機器にリンク	16
DJI Fly アプリを使用したリンク作業（推奨）	16
ボタンを使用したリンク作業	16
ゴーグルの使用	18
ゴーグルの操作	18
ボタン	18
AR カーソル	18
ゴーグルの画面	22
FPV ビュー	22
ショートカットメニュー	24
カメラ設定	25
ゴーグルメニュー	26
ゴーグルの映像の保存とエクスポート	29
映像の保存	29
映像のエクスポート	29
SD カードのフォーマット	29
Real View	30
Real View PiP	30

ライブビュー共有	30
モバイル端末との有線接続	31
モバイル端末とのワイヤレス接続	31
他のゴーグルへの配信	31
パノラマ／3D 動画再生	32
ヘッドトラッキング機能の使用（特定の機体のみ対応）	32
メンテナンス	33
フォームパッドの交換	33
ゴーグルの清掃とメンテナンス	34
ファームウェアの更新	35
DJI Fly アプリの使用	35
DJI Assistant 2（一般向けドローン用）の使用	35
付録	37
仕様	37
対応製品	39
リスクと警告	39
トラブルシューティング	40
ダイレクト リモート ID	40
低ブルーライトステートメント	40
アフターサービス情報	41

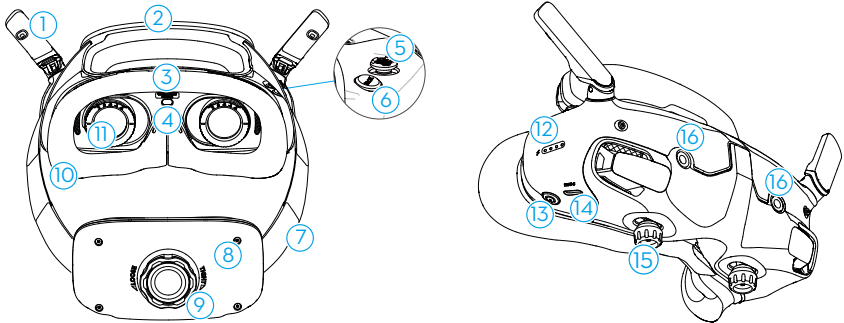
製品の特徴

はじめに

DJI Goggles 3 (以下、ゴーグル) は、2つの高性能画面とDJI機体で使用するための超低遅延画像伝送を備え、リアルタイムの空中一人称視点 (FPV) を体験できます。DJI Goggles 3は、ヘッドトラッキング機能に対応しています。この機能により、頭部の動きを利用して機体とジンバルを制御できます。DJI RC Motion 3とともに使用すると、機体とジンバルカメラを自由に制御でき、さまざまなシナリオでの撮影ニーズを満たすことができます。

より快適な体験を実現できるように、本ゴーグルは視度調整に対応しているため、使用中は眼鏡を必要としません。ゴーグルの前面には2つのカメラがあり、ユーザーはゴーグルを外すことなくReal Viewで周辺環境を見ることができます。また、ゴーグルはWi-Fi経由でライブビューをモバイル端末に共有することもできます。

概要

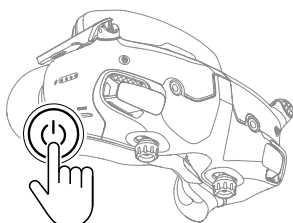


1. アンテナ
2. 額パッド
3. microSDカードスロット
4. 近接センサー
ゴーグルの装着を検知し、自動的に画面のオン/オフを行います。
5. 5Dボタン
6. 戻るボタン
7. ヘッドバンド
8. バッテリー収納部
9. ヘッドバンド調整ノブ
10. フォームパッド
11. レンズ
12. バッテリー残量LED
13. 電源ボタン/リンクボタン
14. USB-Cポート
15. IPD (瞳孔間距離) スライダー/視度調整ノブ (以下、「ノブ」と表記)
16. カメラ

はじめに

ゴーグルの準備

ゴーグルの電源を入れる



電源ボタンを1回押すと、バッテリー残量を確認できます。

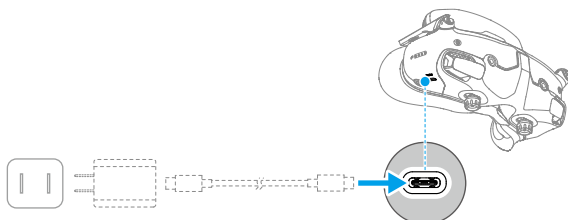
ボタンを1回押し、次に2秒間長押しすると、ゴーグルの電源がオンまたはオフになります。

バッテリー残量LEDは、充電中および使用中に残量を表示します：

- LED点灯
- ◐ LED点滅
- LED消灯

LED1	LED2	LED3	LED4	バッテリー残量
●	●	●	●	89~100%
●	●	●	◐	76~88%
●	●	●	○	64~75%
●	●	◐	○	51~63%
●	●	○	○	39~50%
●	◐	○	○	26~38%
●	○	○	○	14~25%
◐	○	○	○	1~13%

バッテリー残量が少ない場合は、USB充電器を使用して充電することをお勧めします。



下の表は、充電中のバッテリー残量を示しています：

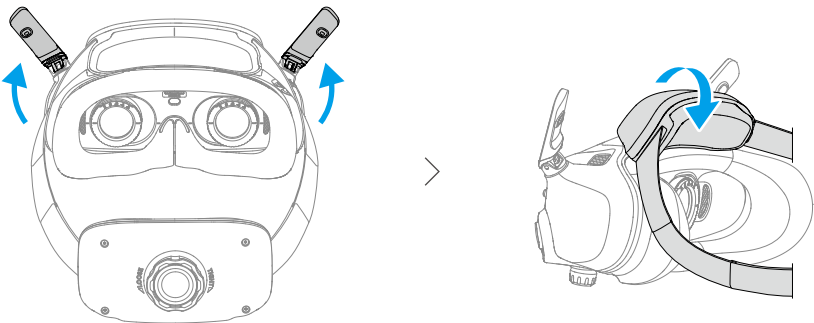
LED1	LED2	LED3	LED4	バッテリー残量
				1～50%
				51～75%
				76～99%
				100%

・ USB-Cポートの仕様：USB 2.0（480 Mbps）最大入力電力は9V/3Aです。

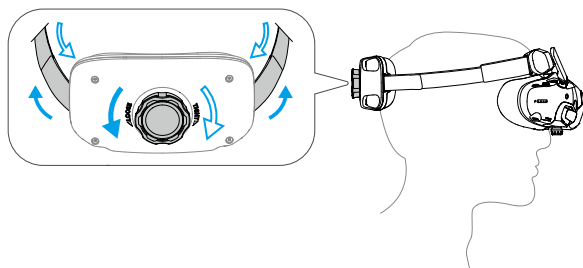
ゴーグルの装着

- ・ ヘッドバンドにバッテリーワイヤーが埋め込まれています。ワイヤーが損傷しないように、ヘッドバンドを強く引っ張らないでください。
- ・ ゴーグルを使用していない時は、損傷を防ぐために、アンテナを折りたたんでください。
 - ・ 鋭利な物で、フォームパッド、追加の額パッド、バッテリー収納部の柔らかい面を破ったり、引っかいたりしないでください。
 - ・ 追加の額パッドを無理に曲げないでください。
 - ・ 部品の損傷を回避するため、ヘッドバンド調整ノブや視度調整ノブを無理に回転させないでください。

1. アンテナを展開します。
2. 額パッドを最も低い位置まで下方に調整します。



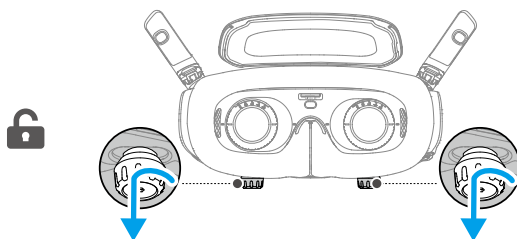
3. デバイスの電源を入れたら、ゴーグルを装着します。
4. バッテリー収納部のヘッドバンド調整ノブを回して、ヘッドバンドの長さを調整します。ヘッドバンドを締めるには時計回りに、ヘッドバンドを緩めるには反時計回りに回します。ゴーグルのずり落ちを回避するため、バッテリー収納部が後頭部の上部になるように装着することをお勧めします。



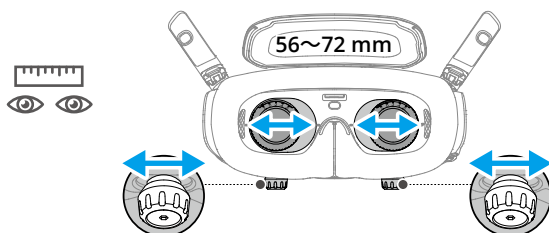
クリアな視界を得るには

視力が-6.0 D~+2.0 Dの範囲にある場合は、ゴーグル下部のノブを回転させて視度を調整します。回転すると、ゴーグル内の画面に視度値が表示されます。

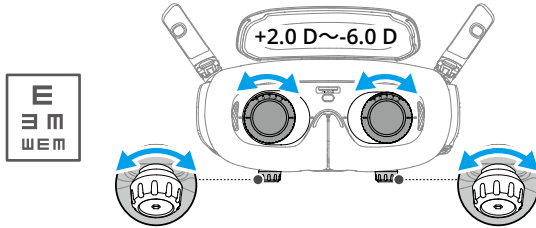
1. 両方のノブを、図で示す方向に回してロック解除します。ロック解除されると、ノブが飛び出します。



2. 左右にスライドすると、適切な配置で映像が見れるようにレンズ間の距離が調節されます。

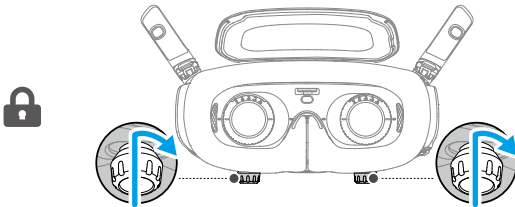


3. ノブをゆっくり回すと、視度が調整されます。対応調整範囲は、 $-6.0\text{ D}\sim+2.0\text{ D}$ です。



- ☀
- 本ゴーグルは、乱視矯正に対応していません。乱視矯正が必要な場合、またはゴーグルの視度が合わない場合は、別途レンズを購入し、付属の矯正レンズフレームを使用してゴーグルに取り付けることができます。詳しくは「矯正レンズの使用」セクションを参照してください。
 - 最初に視度を調整するときには、実際に使用しているメガネの視度よりも少しだけ弱い視度に調整することをおすすめします。目が順応するまで十分な時間を取り、クリアな視界を得るまで、視度を繰り返し調整してください。目の疲れを避けるため、実際に使用しているメガネの視度より強い視度値で使用しないでください。

4. クリアな視界を得られたら、ノブを押し込み、図で示す方向に回すと、レンズの位置と視度がロックされます。

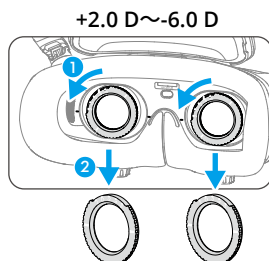


矯正レンズの使用

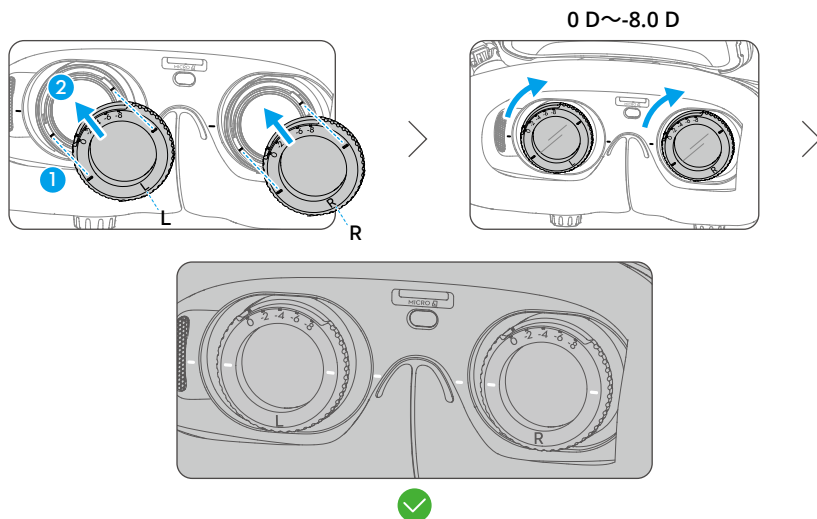
DJI Goggles 3は-6.0 D～+2.0 Dまでの視度調整に対応しています。

視力が-6.0 D～-8.0 Dの範囲にある場合は、付属の-2.0 D矯正レンズを取り付けることができます。

1. 図のように反時計回りに回転させ、ゴーグルから元のレンズフレームを取り外します。



- 2.0 D矯正レンズを取り外し、保護フィルムを剥がします。底面のLとRのマークで左右のレンズを見分けられます。
- 矯正レンズフレームの左右にある位置決めマークと、ゴーグルレンズフレームの内円にあるマークを合わせます。矯正レンズを押し下げて取り付け、矯正レンズフレームのマークとゴーグルレンズフレームのマークが合うまで時計回りに回転させます。



4. 必要に応じて、ゴーグルの視度を調整ノブをロックします。

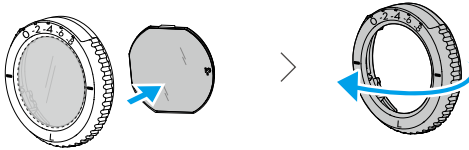
- ⚠ ・-2.0 D矯正レンズ取り付け後、画面に表示される視度値は実際の視度値ではありません。実際の視度値は、画面上の視度値と-2.0 Dの合計です。

矯正レンズの購入と取り付け

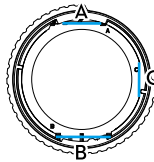
乱視矯正が必要な場合や、ゴーグルの視度がニーズに合わない場合は、適切なレンズを購入し、矯正レンズフレームを使用して取り付けることができます。

- ⚠ ・レンズを購入する際は、-2.0 D矯正レンズ一式（フレームとレンズ組）を専門の眼鏡店に持参し、レンズの形状、サイズ、乱視軸、縁の厚さ（< 1.8 mm）が矯正レンズフレームの取り付け条件を満たしていることを確認してください。

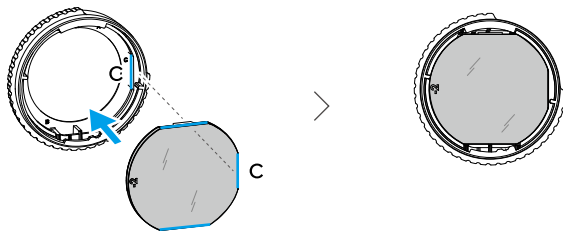
1. フレームから-2.0 Dレンズを押して取り外します。フレームを裏返します。



2. フレーム内の最短カットエッジ (c) を特定します。



- 購入したレンズを取り外し、最短のカットエッジも確認します。
- 左右のレンズと対応するフレームを見分けるようにしてください。最短カットエッジを合わせ、レンズの凹面が目に向くようにレンズをフレームに取り付けます。



- レンズが正しい方法で取り付けられ、傾いていないことを確認します。レンズクリーニングクロスでレンズを拭いて、指紋や埃を拭き取ってください。
- ゴーグルに矯正レンズを取り付けます。
- 必要に応じて、ゴーグルの視度を調整しノブをロックします。

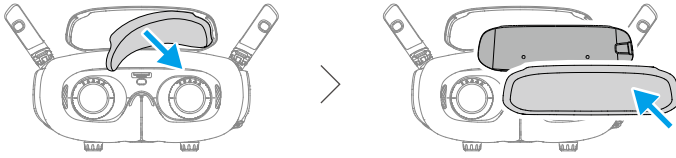
☀️ • 通常-9.0 Dの眼鏡をかけている場合は、-3.0 Dのレンズを購入し、ゴーグルの視度を-6.0 Dに調整することができます。これにより、セルフプリペアレンズの取り付け後の視度値は-9.0 Dとなります。

追加の額パッドの使用

矯正レンズを取り付けると、レンズと目の間の距離が縮まり、まつ毛がレンズに接触することがあります。違和感を感じたら、追加の額パッドを取り付けてください。



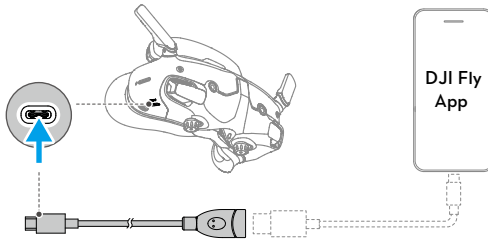
1. 元の額パッドを剥がします。
2. 追加の額パッドを取り付け、その上に元の額パッドを取り付けます。



アクティベーション

DJI Goggles 3は必ず最初の使用前にアクティベーションしてください。

USB-C OTGケーブルと適切なデータケーブルを使用して、ゴーグルのUSB-Cポートをモバイル端末に接続します。DJI Flyアプリを実行し、画面上の指示に従って、デバイスをアクティベーションし、ファームウェアを更新してください。アクティベーション中は、モバイル端末がインターネットに接続していることを必ず確認してください。



- ⚠️ • 本ゴーグルは標準USB-CプロトコルとMFI認証済みLightningケーブルのみに対応しています。標準ケーブルではないケーブルには、対応していません。接続してもデバイスが反応しない場合、別のデータケーブルを使用してみてください。

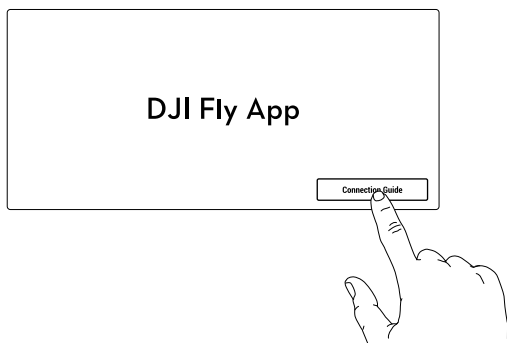
機器にリンク

リンク前の準備：

1. ゴーグルと送信機の電源を入れます。リンクは、機器が機体から0.5 m以内にある状態で行ってください。デバイスが最新のファームウェアバージョンに更新され、十分なバッテリー残量があることを確認してください。
2. ゴーグルメニューを開き、[ステータス]を選択し、メニュー上部に表示されている機体モデルが正しいことを確認します。正しくない場合は、メニューの右上隅から[切り替える]を選択し、正しい機体を選択します。

DJI Flyアプリを使用したリンク作業（推奨）

アクティベーション後、ゴーグルをモバイル端末に接続した状態にします。モバイル端末からDJI Flyの接続ガイドをタップし、画面上の指示に従って機体と接続します。



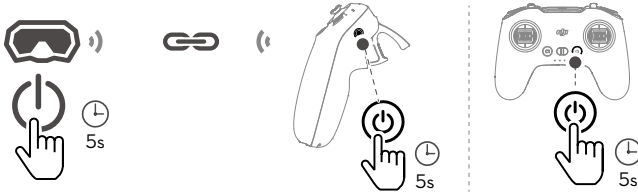
ボタンを使用したリンク作業

1. 機体とゴーグルのリンク作業：



- a. 機体の電源ボタンをピーブ音が1回鳴り、バッテリー残量LEDが順番に点滅し始めるまで長押しします。
- b. ゴーグルの電源ボタンをゴーグルのピーブ音が鳴り続け、バッテリー残量LEDが順番に点滅し始めるまで長押しします。

- c. リンクが完了すると、機体のバッテリー残量LEDが点灯してバッテリー残量が表示されます。ゴーグルのピーブ音が止まり、映像伝送が正常に表示できるようになります。
2. ゴーグルと送信機のリンク作業：



- ゴーグルの電源ボタンをゴーグルのピーブ音が鳴り続け、バッテリー残量LEDが順番に点滅し始めるまで長押しします。
- ピーブ音が鳴り続け、バッテリー残量LEDが順番に点滅し始めるまで、送信機の電源ボタンを長押しします。
- リンク作業が完了すると、ゴーグルと送信機のピーブ音は止まり、両方のバッテリー残量LEDが点灯してバッテリー残量が表示されます。



• DJI RC 2またはDJI RC-N2を使用している場合、送信機と機体がリンクしていることを確認し、機体とゴーグルをリンクさせます。

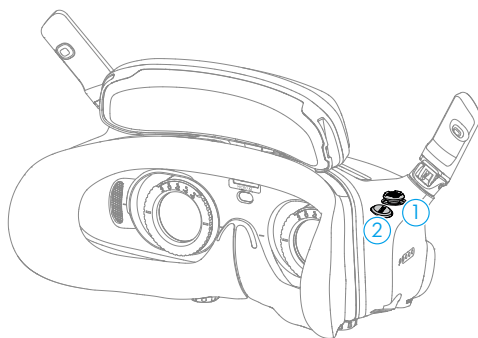


• 飛行中、機体は1台の送信機デバイスでのみ制御できます。機体が複数の送信機デバイスとリンクされている場合には、リンク作業の前に他の送信機デバイスの電源を切っておいてください。

ゴーグルの使用

ゴーグルの操作

ボタン



1. 5Dボタン

ゴーグルのFPVビューからメニューを開くには、右に押すか押し込みます。前方に押すとカメラ設定パネルが開き、後方に押すとショートカットメニューが開きます。

設定パネルが開いたら、ボタンを押してメニューを移動したり、パラメーター値を調整することができます。押して、選択を確定します。

2. 戻るボタン

押すと前のメニューに戻るか、現在のビューを終了します。

ARカーソル

🔦 • ARカーソルは、DJI RC Motion 3（以下、モーションコントローラー）との組み合わせにのみ対応しています。

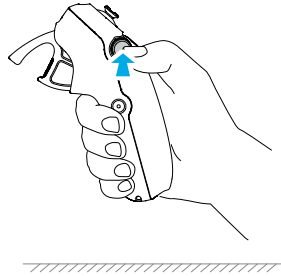
⚠️ • ARカーソルは、車や船など動いている物体の上で使用すると、正しく機能しません。

離陸前、またはロックボタンを使用して機体をホバリングさせる際、ユーザーはARカーソル（先端に丸のついた白い線）を使用して、ゴーグルの画面を操作することができます。



カーソルの再センタリング

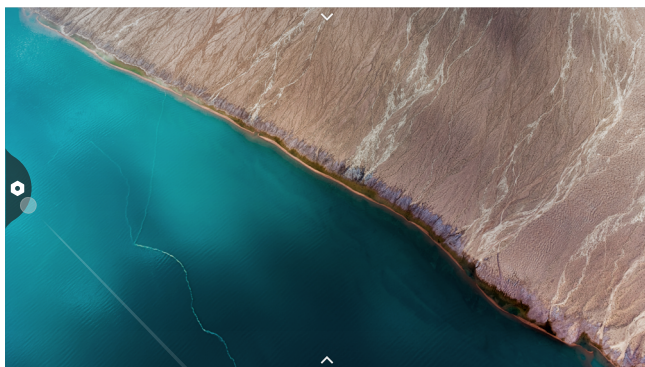
ゴーグルの画面にカーソルが表示されていない場合は、モーションコントローラーを下図のように持ち、モーションコントローラーの左側にあるダイヤルを長押ししてカーソルを再調整してください。



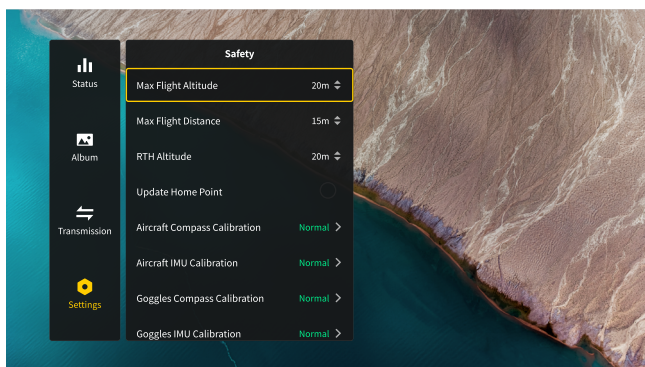
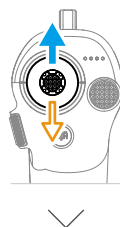
それでもカーソルが見つからない場合は、画面にカーソルが表示されるまでモーションコントローラーを上下に傾けます。

メニューの操作

- モーションコントローラーの動きを利用して、画面左側の矢印にカーソルを移動させます。アクセルを最初の停止位置まで軽く引くと、カーソルが小さくなり、メニューが開きます。

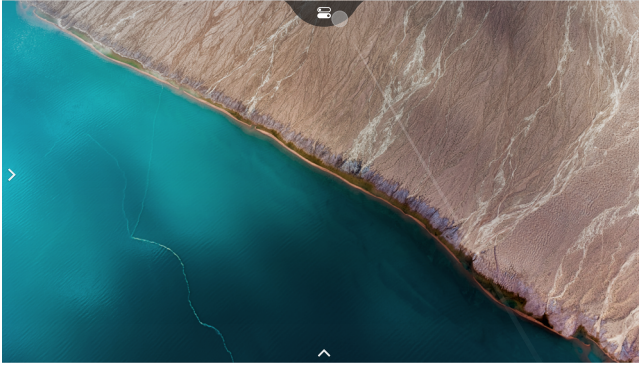


モーションコントローラーのジョイスティックを使用して、メニューを上下にスクロールします。

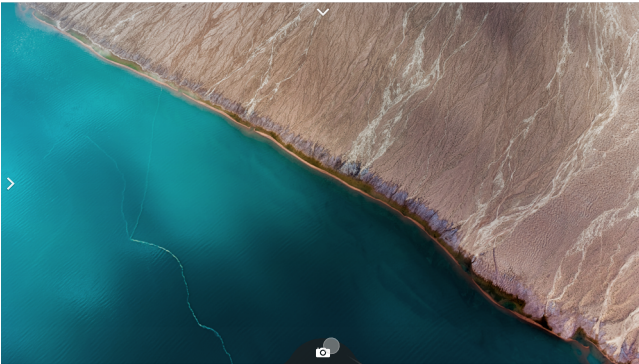


終了または前のメニューに戻るには、アクセルを前方に押すか、カーソルが画面上の空いている場所にあるときにアクセルを軽く引きます。

- 画面上部の矢印にカーソルを合わせ、アクセルを引くとショートカットメニューに入り、録画や拡張ディスプレイなどの設定を行うことができます。



- 画面下部の矢印にカーソルを合わせ、アクセルを引いてカメラ設定に入り、機体カメラのパラメーターを設定します。



動画再生の操作

グーグルのmicroSDカードに保存された写真や動画をプレビューする際、カーソルを使用して再生操作や以下のような他の操作を行うことができます：

- アクセルを引くと再生を一時停止または継続し、アクセルを前方に押すと終了します。
- アクセルを引きながらカーソルを左右に動かし、進捗バーを調整します。
- カーソルを画面上部の矢印に合わせ、アクセルを引いて再生設定に入り、画面の明るさや音量を調整します。

ゴーグルの画面

- ☀️ • 実際の画面は、本マニュアルの記述と異なる場合があります。また、使用する機体やゴーグルのファームウェアバージョンにより異なります。

FPVビュー



1. 飛行方向インジケータ

モーションコントローラーで機体を制御する場合、円は機体の進行方向を示します。

2. ストレージ情報

機体またはゴーグルのストレージの空き容量を表示します。

3. ジンバルスライダー

ジンバルのチルト角を表示します。

4. ズーム比率

機体がエクスプローラーモードに対応しており、撮影モードでエクスプローラーモードが有効になっている場合、現在のズーム比率が表示されます。ゴーグルのカメラビューでダイヤルをスクロールし、カメラのズームを調整します。

5. プロンプト

新しいモードが適用されたときや、バッテリー残量が低下しているときなどに、その通知や情報を表示します。

6. ゴーグルのバッテリー残量

ゴーグルの現在のバッテリー残量を表示します。

7. GNSSステータス

現在の機体のGNSS信号強度を表示します。

デバイスが長時間使用されていなかった場合、GNSS信号の検索に通常より時間がかかることがあります。短時間で電源をオン/オフした場合、信号を妨害するものがなければ、GNSS信号の検索には20秒ほどしかかかりません。アイコンが白色の場合、GNSS信号が強いことを示します。アイコンがオレンジ色の場合、GNSS信号が弱いことを示します。アイコンが赤色の場合、GNSS信号が非常に弱いことを示します。

8. ビジョンシステム ステータス

リンクしている機体のビジョンシステムの状態を表示します。このアイコンは機体モデルによって異なります。ビジョンシステムが正常な場合、アイコンは白色で表示されます。グレーと赤色はそれぞれ、ビジョンシステムがオフになっているか、異常動作していることを示し、この時点では障害物を回避できないことに注意してください。

9. 動画ビットレート

現在のライブビュー動画ビットレートを表示します。

10. 送信機信号と映像伝送信号の強度

送信機の信号強度、機体とゴーグル間の映像伝送信号強度を表示します。

アイコンは、信号が強いと白色になり、信号がなくなるとグレーになります。

アイコンは、信号が中程度に弱いとオレンジ色になり、極端に弱いと赤色になります。同じ色のプロンプトバーがフライトライブビューの下部に表示されます。

11. 飛行可能残時間

機体の残り飛行時間を表示します。

12. 機体のバッテリー残量

13. 地面までの距離

機体が地面から10 m未満の高度で飛行しているときの機体の地面からの現在の高度情報を表示します。

14. フライトテレメトリ

機体とホームポイント間の水平距離 (D)、ホームポイントからの高さ (H)、機体の水平速度、および機体の垂直速度を表示します。

15. フライトモード

現在のフライトモードを表示します。

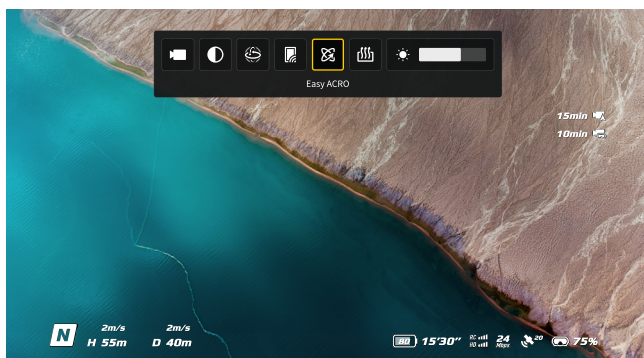
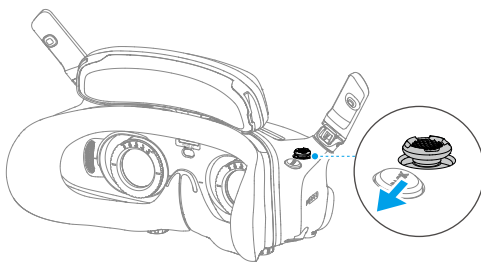
16. ホームポイント

ホームポイントの相対位置を示します。

ショートカットメニュー

5Dボタンを後方に押すと、FPVビューからショートカットメニューが開かれ、以下の機能にすばやくアクセスして、操作することができます。

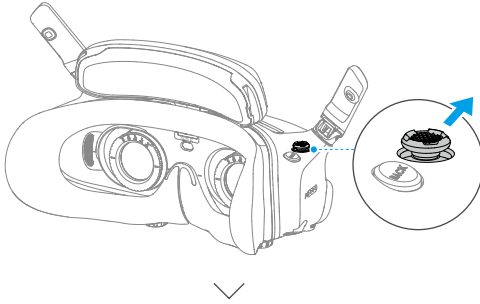
- 写真撮影、または動画撮影の開始/停止
- エンハンス表示の有効化/無効化
- ヘッドトラッキングの有効化/無効化（一部の機体のみ対応）
- Wi-Fi経由でライブビューをモバイル端末に共有の有効化/無効化
- 簡単ACROの有効化/無効化（一部の機体のみ対応）
- ゴーグル曇り止めの有効化/無効化
- 明るさの調整



カメラ設定

5Dボタンを前方に押すと、FPVビューからカメラ設定パネルが開かれ、カメラ関連のパラメーターを変更できます。

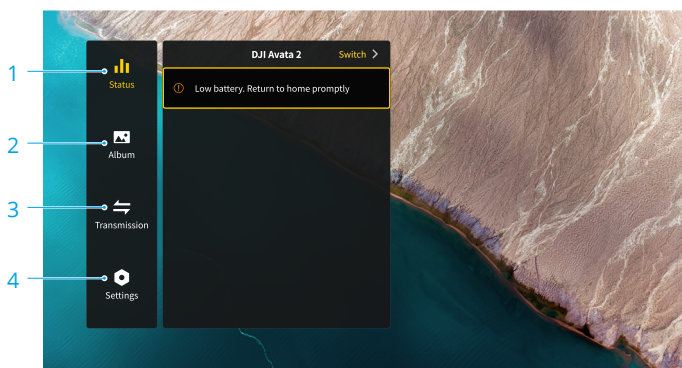
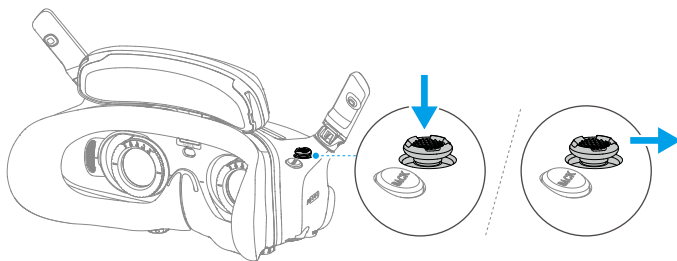
パラメーターパネルで右に押すと、さらに多くのパラメーターを表示設定することができます。



ゴーグルメニュー

5Dボタンを右に押すか押し込むと、FPVビューからメニューが開きます。

- ☞ ・実際のメニューオプションは、本マニュアルの記述と異なる場合があります。また、使用する機体やゴーグルのファームウェアバージョンにより異なります。



1. ステータス

- 使用中の機体モデルとプロンプト警告の詳細情報を表示します。
- 機体を変更するには、右上隅の切り替え機能を使用します。

2. アルバム

ゴーグルのmicroSDカードに保管された写真または動画を表示します。プレビューする任意のファイルを選択します。

3. 伝送

伝送メニューには、[パイロット]サブメニューと[オーディエンス]サブメニューがあります。


- 現在のデバイスに対する映像伝送モードの設定は、パイロットサブメニューで行えます。設定できる内容は、以下の項目などがあります：
 - a) [配信モード]の有効または無効（特定の機体にのみ対応）。配信モードが有効になると、

デバイス番号が表示されます。これにより、他のデバイスがそのデバイス番号でチャンネルを見つけて入り、飛行ライブビューを見ることができます。

- b) フォーカスモードを無効、または自動に設定します。（一部の機体のみ対応）
 - c) チャンネルモードを自動または手動に設定します。[自動]を選択することをお勧めします。これにより映像伝送は異なる周波数帯域を自動的に切り替え、最良の信号のチャンネルを選択します（一部の機体では単一周波数帯のみ対応）。
 - d) 周波数帯を設定します。チャンネルモードが手動に設定されている場合、2.4 GHzまたは5.8 GHzのいずれかを選択できます（一部の機体は、1つの周波数帯にのみ対応）。
 - e) 映像伝送の帯域幅を設定します。使用可能なチャンネル数は帯域幅によって変わります。最良の信号強度を受信できるチャンネルは手動で選択できます。帯域幅が高いほど、動画転送レートが高くなり、画質が鮮明になります。ただし、無線干渉の可能性も高まり、使用可能な機材の数がより制限されます。多人数でプレイする競技会で干渉を避けるには、固定した帯域幅とチャンネルを手動で選択してください。
- 配信モードがオンになっている映像伝送デバイスが近くにある場合、デバイスとその信号強度をオーディエンスサブメニューで確認することができます。チャンネルを選択して、飛行ライブビューを見ます。

4. 設定


- 安全性
 - a) 最大飛行高度、最大飛行距離、RTH高度などの安全に関する設定を行います。また、必要な場合は、ホームポイントの更新、障害物回避動作の設定（機体が障害物回避に対応している場合）、機体またはゴーグルのIMUとコンパスのステータスの表示とキャリブレーションを行うことができます。
 - b) [ロスト前のカメラビュー]は、信号ロストの30秒前に取得した機体のキャッシュ動画を使用し、地上にある機体の位置を特定するのに役立ちます。機体に信号とバッテリー残量がまだある場合は、ESCのビーブ音をオンにすると、機体からのビーブ音で機体の位置を特定できます。
 - c) 高度安全設定には、以下の項目が含まれます：
 - 機体の信号ロスト時のアクション：送信機からの信号ロスト時に、機体の動作を、ホバリング、着陸もしくはRTHに設定できます。
 - AirSense:近くの空域に民間航空機が接近している場合、ゴーグルからユーザーに通知します。この機能は、デフォルトで有効になっています。無効にしないでください。
 - 緊急プロペラ停止（デフォルトでは無効）：有効になっている場合、飛行中にモーションコントローラーのロックボタンを4回押しすと、機体のモーターをいつでも停止できます。この切り替えが無効になっている場合、衝突の発生、モーター停止、空中での機体のローリング、機体の操縦不能、急激な上昇/降下などの緊急時にのみ、このアクションでモーターを停止できます。

 • 飛行中にモーターが停止すると、機体は墜落します。慎重に操作してください。

- 制御
 - a) スティックモード、カスタムボタン、IMUやコンパスのキャリブレーションなどの送信機関連機能を設定できます。
 - b) モーションコントローラーの説明の表示、利き手の切り替え、ゲインチューニングの調

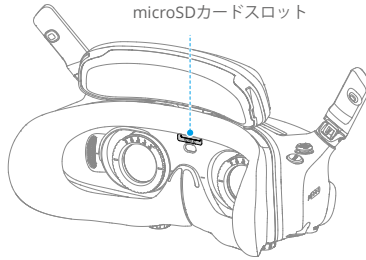
整、または動作コントローラーのキャリブレーション。

- c) ジンバルのキャリブレーション、ジンバルのチルト速度の調整、ユニットの設定、またはタートルモードを使用して、横転した機体を起こしたりできます（特定の機体のみタートルモードに対応）。
 - d) ゴーグルのチュートリアルを表示します。
- カメラ
 - a) アスペクト比、動画品質、動画フォーマット、グリッド線、ストレージ用デバイスの設定、SDカードのフォーマットなど。

 ・フォーマット後はデータを回復できません。慎重に操作してください。

- b) カメラ詳細設定：
 - 録画デバイス、画面関連パラメーター、離陸時の自動録画の有効／無効などを設定できます。
 - カメラビュー録画（デフォルトで有効）：無効にすると、ゴーグル画面の録画にOSD（オンスクリーンディスプレイ）要素が含まれなくなります。
 - c) [カメラパラメーターをリセット]を選択すると、すべてのカメラ設定をデフォルトに戻すことができます。
- ディスプレイ
 - a) 画面の輝度、ディスプレイのスケーリング、ホームポイントの表示／非表示を調整できます。
 - b) ゴーグル曇り取り：有効にすると、冷却ファンが高速で作動し続け、レンズの曇りを軽減します。
 - c) Real Viewの表示を設定します。
 - 詳細
 - a) シリアル番号、ゴーグルのファームウェア、リンクされているデバイスなどのデバイス情報を表示します。
 - b) システム言語を設定します。
 - c) OTG有線接続：このモードでは、USB-C急速充電ケーブルでゴーグルをPCに接続できません。
 - d) コンプライアンス情報を表示します。
 - e) ゴーグルとリンクされているデバイスをデフォルトの設定にリセットします。
 - f) すべての機器データの消去：使用中に生成され、機体に保存されたすべてのユーザーデータは消去されます（一部の機体のみ対応）。

ゴーグルの映像の保存とエクスポート



映像の保存

本ゴーグルは microSDカードの使用に対応しています。microSDカードの挿入後、[Record With] が機体とゴーグルの両方に設定されている場合、機体が動画を撮影している間、ゴーグルは画面に表示されている飛行ライブビューを同時に録画し、ゴーグルのmicroSDカードに保存します。

映像のエクスポート

録画した映像をエクスポートするには、下記手順に従ってください：

1. ゴーグルの電源を入れます。
2. USB-A - USB-Cケーブルを使用してゴーグルのUSB-CポートをPCに接続し、画面の指示に従って映像をエクスポートします。

⚠️ ・ゴーグルがUSB-C急速充電ケーブルでPCに接続されている場合は、ゴーグルのメニューから [設定] > [詳細] を選択し、OTG有線接続モードに入って映像をエクスポートします。

画面収録には、デフォルトでOSD要素が含まれます。OSD要素なしで画面を録画するには、以下のように設定を変更してください。

1. ゴーグルメニューを開きます。
2. 設定 > カメラ > カメラ詳細設定の順に選択し、カメラビュー録画を無効にします。

SDカードのフォーマット

microSDカードをフォーマットするには、下記手順に従ってください：

1. ゴーグルメニューを開きます。
2. 設定 > カメラ > フォーマットの順に選択します。
3. フォーマットするストレージデバイスを選択し、画面の指示に従って操作を完了させます。

⚠️ ・フォーマット後はデータを回復できません。慎重に操作してください。

Real View

DJI Goggles 3には双眼カメラが搭載されており、ゴーグルを装着したまま周辺環境を見ることができます。

ゴーグルの右側を強く2回タップするか、モーションコントローラーのダイヤルを2回押すと、Real Viewに入ることができます。

飛行を終了してライブビューに戻るには、もう一度同じ操作を行います。


ゴーグルのメニューに入り、[設定] > [ディスプレイ] を選択し、Real Viewを2Dまたは3Dに設定します。


3Dは、より没入感のある立体的なReal Viewを実現します。お好みに合わせて選択してください。

Real View PiP

ゴーグルが機体と一緒に使用されている場合、Real Viewはリアルタイムの飛行ライブビューの表示に対応しています。


1. ゴーグルのメニューに入り、[設定] > [ディスプレイ] を選択し、Real View PiPを有効にします。
2. ゴーグルの右側を2回強くタップするか、モーションコントローラーのダイヤルを2回押すと、Real View の左上に飛行ライブビューが表示されます。ゴーグルの画面には、周囲の状況と機体の映像が同時に表示されます。


 • Real View が3Dに設定されている場合、飛行ライブビューを同時に画面に表示することはできません。

 • Real View PiPを使用する場合、飛行ライブビューは機体のステータスを表示するためにのみ使用されます。この画面を頼りに飛行しないでください。

ライブビュー共有

DJI Goggles 3は、3つの異なる方法で飛行ライブビューを共有することができます。

 • 機体、ゴーグル、送信機の電源を入れます。すべてのデバイスがリンクされていることを確認します。

 • パイロットの操作を妨げないよう、離陸前、または機体がブレーキをかけている時やホバリングしている時にライブビュー共有機能进行操作してください。

• ゴーグルは、ライブビューを共有するために、ワイヤレス接続または有線接続のいずれかで、1つのモバイル端末との接続にのみ対応しています。


• モバイル端末に接続している場合、ゴーグルがReal Viewに切り替わるとライブビュー共有は一時停止し、ゴーグルが飛行ライブビューに切り替わると共有は回復します。


• モバイル端末に接続している場合、アルバム内の画像や動画を表示すると、ライブビュー共有は一時停止されます。共有を回復するには、アルバムを終了します。

モバイル端末との有線接続

1. モバイル端末をゴーグルのUSB-Cポートに接続するには、適切なデータケーブルまたは付属のUSB-C OTGケーブルを使用することをお勧めします。
2. DJI Flyアプリを起動し、画面右下のGO FLYをタップするとライブビューに入ります。

モバイル端末とのワイヤレス接続

1. ショートカットメニューを開き、[Wi-Fi経由でライブビューをモバイル端末に共有] を選択します。
2. モバイル端末のWi-FiとBluetoothをオンにし、スマートフォンの位置情報機能を有効にします。
3. DJI Flyアプリを起動すると、ホームページのボックスにWi-Fi接続可能な新しいデバイスが表示されます。
4. ボックスをタップし、接続するゴーグルを選択します。
5. DJI Flyを初めて機体に接続する場合は、アプリにプロンプトが表示されたら、ゴーグルの電源ボタンを2秒間長押しします。バッテリー残量LEDは内側から外側へ点滅し、その後点灯します。DJI Flyは、必要に応じてゴーグルとの接続を促します。[参加] を選択します。
6. [ライブビューを視聴] をタップすると、ゴーグルからライブビューにアクセスできます。

-  • リンク作業プロセスの起動を避けるため、ゴーグルの電源ボタンを長時間押さないでください。
- [Wi-Fi経由でライブビューをモバイル端末に共有] を有効にした場合、モバイル端末との有線接続には対応しません。
 - ワイヤレス接続モードでは、ライブビュー共有のためにゴーグルを別の新しいモバイル端末に接続する前に、ゴーグルを現在接続しているモバイル端末から切断してください。
 - (日本のように) 5.8 GHzが規制で許可されていない場合、Wi-Fi経由でライブビューをモバイル端末に共有することはできません。

他のゴーグルへの配信


配信モードでは、近くにDJI Goggles 3があれば、他のゴーグルにライブビューを共有することができます。

1. ゴーグルメニューに入り、[伝送] を選択し、パイロットのサブメニューに入ります。
2. 配信モードをオンにすると、デバイス番号が表示されます。
3. 他のDJI Goggles 3で、ゴーグルのメニューに入り、[伝送] を選択すると、[オーディエンス] サブメニューに入ります。
4. 近くにあるDJI Goggles 3が配信モードをオンにすると、そのデバイスと信号強度がオーディエンスのサブメニューに表示されます。ライブビューにアクセスするデバイス番号を選択します。ライブビュー共有を終了するには、パイロットのサブメニューに切り替えます。


パノラマ／3D動画再生

このゴーグルはパノラマ動画や 3D動画の再生に対応しており、没入感のある視聴体験を実現します。


1. パノラマ／3D動画をmicroSDカードにインポートし、カードをゴーグルに挿入します。
2. ゴーグルのメニューに入り、次にアルバムに入り、再生する動画ファイルを選択します。
3. 5Dボタンを後ろへ押し再生メニューを開き、**[2D]**表示切替設定を選択します。
4. ディスプレイモードを設定します。
 - 動画がパノラマの場合は、まず2Dを選択し、次にFOVをパノラマに設定します。
 - 動画が3Dの場合は、まず動画フォーマットから3Dディスプレイモードを選択し、次にFOV、左右反転の有無を選択します。
5. 選択を確定した後、ショートカットメニューを終了すると、ディスプレイ設定に基づいてパノラマ／3D動画が再生されます。

-
-  • 対応動画フォーマットの詳細については、仕様を参照してください。
- ゴーグルにはスピーカーはありませんが、USB-Cポート経由でヘッドフォンに接続できます。Type-CヘッドフォンやDAC（デジタル - アナログ変換コンバーター）を内蔵したヘッドフォンアダプターにのみ対応します。
-

ヘッドトラッキング機能の使用（特定の機体のみ対応）

ヘッドトラッキング機能は、特定の機体のみがサポートしている機能で、ゴーグルのショートカットメニューでを選択することにより有効にできます。

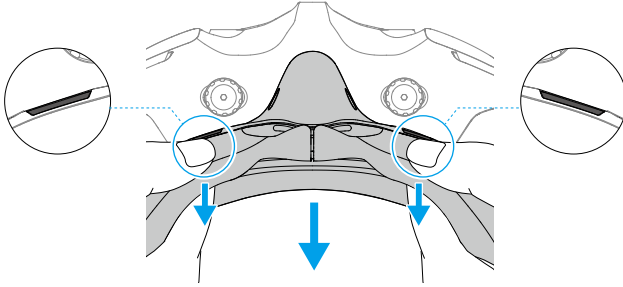
ヘッドトラッキング機能を有効にすると、フライト中の頭部の動きで機体の水平方向とジンバルのチルトを制御できます。送信機は、機体の飛行経路のみを制御します。ジンバルは、送信機では制御できなくなります。

-
-  • ゴーグルを外すとヘッドトラッキングはできなくなります。
-

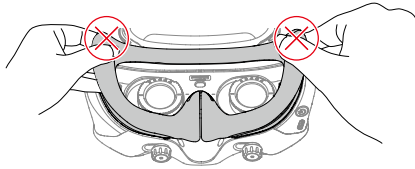
メンテナンス

フォームパッドの交換

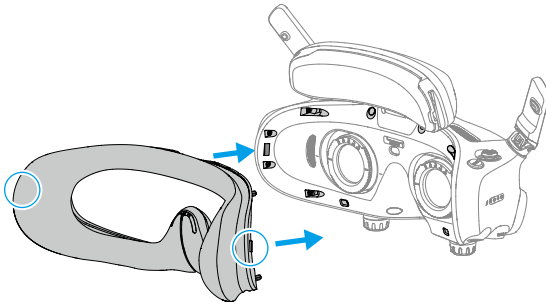
1. フォームパッドの底部を持ち、以下の図で示すようにやさしく取り外します。



- ⚠️ ・フォームパッドの取り外し時には両側を引っ張らないでください。引っ張ると、パッドが破損する恐れがあります。



2. 図のように、新しいフォームパッドの位置決め用の突起部をゴーグルの位置決め用の穴と揃えます。取り付けて、輪郭に沿って押します。フォームパッドの両側を押すと「カチッ」という音がしますが、フォームパッドとゴーグルの間に隙間がないことを確認してください。



ゴーグルの清掃とメンテナンス

柔らかい清潔な布でゴーグルの表面をきれいにします。レンズ用クリーニングクロスを使用して、レンズの中心から外縁に向かって円を描くように拭き取ります。

- ⚠️ ・ゴーグル一体型レンズはアルコールウェットティッシュで拭かないでください。矯正レンズを取り付けた場合は、使い捨てアルコールパッドで拭いてください。
 - ・レンズは優しく拭いてください。視界品質に影響を及ぼすことがあるので、レンズをこすらないでください。
 - ・アルコールやその他の洗浄剤を使用してフォームパッドとバッテリー収納部の柔らかい面を拭かないでください。
 - ・鋭利な物で、フォームパッド、追加の額パッド、バッテリー収納部の柔らかい面を破ったり、引っかいたりしないでください。
 - ・高温や湿度の高い環境によりレンズや他のコンポーネントが損傷しないように、ゴーグルは室温の乾燥した場所で保管してください。
 - ・画面の損傷を防ぐため、レンズを直射日光に当てないでください。
-

ファームウェアの更新

以下の方法のいずれかを使用して、ファームウェアを更新します。

DJI Flyアプリの使用

DJI Avata 2と一緒に使用すると、機体、ゴーグル、送信機と一緒に更新することができます。

機体、ゴーグル、送信機の電源を入れます。すべてのデバイスがリンクされていることを確認します。ゴーグルのUSB-Cポートとモバイル端末を接続し、DJI Flyを起動し、プロンプトに従って更新を行います。インターネット接続が必要となります。

他の機体と使用する場合、ゴーグルのファームウェアは個別に更新することも、送信機と一緒に更新することもできます。

機体の電源を切り、ゴーグルと送信機の電源を入れます。ゴーグルのUSB-Cポートとモバイル端末を接続し、DJI Flyを起動し、プロンプトに従って更新を行います。インターネット接続が必要となります。



- ・本ゴーグルは標準USB-CプロトコルとMFI認証済みLightningケーブルのみに対応しています。標準ケーブルではないケーブルには、対応していません。接続してもデバイスが反応しない場合、別のデータケーブルを使用してみてください。

DJI Assistant 2（一般向けドローン用）の使用

1. デバイスの電源を入れます。USB-Cケーブルで、デバイスをパソコンに接続します。



- ・ゴーグルがUSB-C急速充電ケーブルでPCに接続されている場合は、ゴーグルのメニューから [設定] > [詳細] を選択してから、OTG有線接続モードに入って更新します。

2. DJI Assistant 2（一般向けドローン用）を起動し、DJIアカウントでログインします。
3. デバイスを選択し、画面左側にあるファームウェア更新をクリックします。
4. 更新するファームウェアのバージョンを選択して確定します。
5. ファームウェアがダウンロードされるまで待ちます。ファームウェアの更新が自動的に開始されます。
6. ファームウェア更新が完了すると、デバイスが自動的に再起動します。

- ⚠
- 必ず記載されている全ての手順に従って、ファームウェアを更新してください。手順に従わない場合には更新に失敗する場合があります。
 - ファームウェアの更新には数分かかります。更新中に画面が消えたり、ゴーグルが自動的に再起動することがありますが、これは正常です。ファームウェアの更新が完了するまでしばらくお待ちください。
 - 更新中はパソコンがインターネットに接続されていることを必ず確認してください。
 - ファームウェア更新前に、デバイスに十分なバッテリー残量があることを必ず確認してください。
 - 更新中は、USB-Cケーブルの接続を外さないでください。
 - 更新によりパラメーターがリセットされる場合があります。ご注意ください。更新の前に、ユーザー側で変更した設定内容を別途記録し、更新が完了したら再度設定し直してください。
-

ファームウェア更新情報については、以下のリンクにアクセスし、リリースノートを参照してください：

<https://www.dji.com/goggles-3/downloads>

付録

仕様

モデル	TKGS3
重量	約470 g
寸法（長さ×幅×高さ）	アンテナ折りたたみ時：170×109×112 mm（縦×横×高さ） アンテナ展開時：205×109×112 mm（縦×横×高さ）
画面サイズ（一画面）	0.49インチ
解像度（一画面）	1920×1080
リフレッシュレート	最大100 Hz
瞳孔間距離（IPD）	56～72 mm
視度調整範囲	-6.0 D ～ +2.0 D
FOV（一画面）	44°
動画録画フォーマット	MOV
対応動画とオーディオ再生形式	MP4、MOV（動画コーディング形式：H.264、H.265、オーディオフォーマット：AAC、PCM） パノラマ動画：球面2D/パノラマ動画。 3D動画：Half-Side-by-Side (HSBS)、Full-Side-by-Side (FSBS)、Half Over-Under (HOU)、Full Over-Under (FOU)。 最大動画スペック：4K/60fps
リアルビュー FOV	44°
動作環境温度	-10°C～40°C
電源入力	内蔵バッテリー
対応SDカード	microSD（最大512 GB）
推奨microSDカード	Sandisk Extreme Pro 32GB U3 A1 V30 microSDHC Lexar 1066x 64GB U3 A2 V30 microSDXC Lexar 1066x 128GB U3 A2 V30 microSDXC Lexar 1066x 256GB U3 A2 V30 microSDXC Lexar 1066x 512GB U3 A2 V30 microSDXC Kingston Canvas Go!Plus 64GB U3 A2 V30 microSDXC Kingston Canvas Go!Plus 128GB U3 A2 V30 microSDXC Kingston Canvas React Plus 64GB U3 A1 V90 microSDXC Kingston Canvas React Plus 128GB U3 A1 V90 microSDXC Kingston Canvas React Plus 256GB U3 A1 V90 microSDXC Samsung EVO Plus 512GB U3 A2 V30 microSDXC

動画伝送

動画伝送	異なる機体で使用する場合、ゴーグルは、使用する機体の動画伝送仕様に対応するファームウェアを自動的に選択します。 DJI Avata 2使用時：DJI O4
動作周波数 ^[1]	2.4000～2.4835 GHz 5.170～5.250 GHz 5.725～5.850 GHz
伝送電力（EIRP）	2.4 GHz: <33 dBm (FCC)、<20 dBm (CE/SRRC/MIC) 5.1 GHz: <23 dBm (CE) 5.8 GHz: <33 dBm (FCC)、<30 dBm (SRRC)、<14 dBm (CE)
遅延 ^[2]	DJI Avata 2使用時： 1080p/100fps動画伝送品質：最小遅延24 ms 1080p/60fps動画伝送品質：最小遅延40 ms
最大伝送距離	DJI Avata 2とDJI Goggles 3を使用する場合、下記の最大動画伝送距離を実現します： 13 km (FCC)、10 km (CE/SRRC/MIC)
最大動画ビットレート ^[3]	60Mbps

Wi-Fi

プロトコル	802.11a/b/g/n/ac
動作周波数 ^[1]	2.4000～2.4835 GHz 5.170～5.250 GHz 5.725～5.850 GHz
伝送電力（EIRP）	2.4 GHz: <20 dBm (FCC/CE/RRRC/MIC) 5.1 GHz: <20 dBm (FCC/CE/MIC) 5.8 GHz: <20 dBm (FCC/RRRC)、<14 dBm (CE)

Bluetooth

プロトコル	Bluetooth 5.0
動作周波数	2.4000～2.4835 GHz
伝送電力（EIRP）	<10 dBm

GFSK

動作周波数	2.4000～2.4835 GHz
伝送電力（EIRP）	<26 dBm (FCC)、 <20 dBm (SRRC/CE/MIC (日本))

バッテリー

寸法	121×65×52.5 mm (縦×横×高さ)
容量	3000 mAh
電圧	5.6～8.4 V
カテゴリー	リチウムイオン
材料	LiNiMnCoO2

電力量	21.6 Wh
充電温度範囲	0°C~50°C
最大充電電力	20 W（電源オフ時に充電）
稼働時間 ^[4]	約3時間

- [1] 一部の国や地域では、5.1GHzまたは5.8GHzの周波数帯、あるいはその両方の使用を禁止しています。また、5.1 GHz周波数帯の使用が、屋内でのみ利用可能な国や地域も一部あります。フライト前に、必ず現地の規制を確認し順守するようにしてください。
- [2] 電波干渉のない、開けた屋外環境で測定された値です。実際のデータは、機体のモデルによって異なります。
- [3] 電波干渉のない、開けた屋外環境で測定された値です。実際のデータは、動作環境によって異なります。
- [4] 最大動作時間3時間は、周辺温度が25°Cの状態、画面輝度4、DJI Avata 2機体を接続し、動画伝送モード1080p/100fps、ヘッドトラッキングをオフに設定し、Real Viewをオフに設定し、完全に充電されたゴーグルを使用し、スマートフォンなどの外部機器に電源を供給していない状態で測定。

対応製品

以下のリンクから対応製品をご覧ください：

<https://www.dji.com/goggles-3/faq>

リスクと警告

電源を入れた後、機体は何らかの危険を検知すると、ゴーグル画面に警告プロンプトが表示されます。飛行中のプロンプトに注意し、製品の損傷や傷害の危険を避けるために必要な処置を適宜行ってください。

信号ロスト時の機体の動作がRTHに設定されている場合、飛行中に制御信号または通信が失われると、機体は自動的にフェールセーフRTHを開始し、最後に記録されたホームポイントに帰還します。

飛行中の衝突の発生、モーター停止、空中での機体のローリング、機体の操縦不能、急激な上昇/降下などの緊急時には、モーションコントローラーのロックボタンを4回押すことでモーターを停止できます。

⚠️ ・飛行中にモーターが停止すると、機体は墜落します。慎重に操作してください。

飛行中にゴーグル画面が不意に消えた場合は、まずモーションコントローラーのロックボタンを1回押して機体を制動させ、その後手動でRTHを開始してください。機体の帰還後、ゴーグルの電力レベルを確認し、ゴーグルの再起動を試してください。問題が解決しない場合は、DJI サポートにお問い合わせください。

トラブルシューティング

1. 電源投入と起動に関する問題

バッテリーから電源が供給されているかどうかを確認してください。電源が供給されていても正常に起動しない場合は、DJI サポートまでお問合せください。

2. 電源オフとシャットダウンの問題

DJIサポートにお問い合わせください。

3. 電源を入れてもデバイスが機能しない。

DJIサポートにご連絡ください。

4. ソフトウェア更新の問題

ユーザーマニュアルの指示に従って、ファームウェアを更新してください。ファームウェア更新が失敗した場合は、すべてのデバイスを再起動してから再試行してください。問題が解決しない場合は、DJI サポートにお問い合わせください。

5. 工場出荷時のデフォルト、あるいは最後に確認された正常動作設定にリセットする手順

ゴーグルのメニューを開き、[設定] > [詳細] > [工場出荷時のデフォルトにリセット] を選択します。

6. 長期保管後に使用する場合はどうすればよいですか？

機器を完全に充電すると、通常使用ができるようになります。

ダイレクト リモートID

機体にUAS運用者登録番号をアップロードする方法：

1. ゴーグルとモバイル端末を接続する。

2. モバイル端末でDJI Flyを起動する。

3. DJI Flyアプリに入り、[Safety] (安全性) > [UAS Remote Identification] (UASリモートID) と進み、UAS運用者登録番号をアップロードします。

低ブルーライトステートメント

ディスプレイからの光は、眼精疲労や網膜の損傷を引き起こし、時間の経過とともに視力に影響を与える可能性があります。DJI Goggles 3はマイクロOLED眼保護画面を採用し、高エネルギーの短波ブルーライトとその放射範囲を効果的に減少させ、有害なブルーライトの暴露からユーザーを保護することができます。DJI Goggles 3は低ブルーライト認証を取得しました。

長時間のディスプレイ使用から目を保護するため、以下の指示に従うことを強くお勧めします：

- 20分ごとに20秒間、画面から遠くを見る。
- 2時間の連続使用後は、10分間目を休ませる。
- 数時間おきに、目を上向きにして大きく円を描く。
- 目が疲れたら、通常の方法でまばたきをし、目を閉じて1分間休む。

アフターサービス情報

アフターサービスポリシー、修理サービス、サポートについては、<https://www.dji.com/support>をご確認ください。

お問い合わせ



連絡先
DJIサポート

本書の内容は変更されることがあります。



<https://www.dji.com/goggles-3/downloads>

本書についてご質問がある場合は、DJI (DocSupport@dji.com)宛にメッセージを送信) までお問い合わせください。

DJIとDJI AVATAは、DJIの商標です。

Copyright © 2024 DJI All Rights Reserved.